

# みちこだより

(日本共産党・笠岡市議会議員 ひのつ倫子)  
自宅 〒714-0055 笠岡市 生江浜 965 Tel & Fax 66-1738 携帯 090-2862-4775

2007年10月 No. 30  
日本共産党 笠岡市議団 発行  
〒714-0081 笠岡市笠岡5945-12  
Tel 63-6001 Fax 63-4164



9月議会のご報告をお届けします。



## 水道料金の引き下げを求めて

この件で過去5回にわたって質問してきた。その要点は笠岡市の水道料金は、県下で2番目に高く、最も安い早島町の約4倍であること、浅口市、里庄町の約1.5倍で福山市の約2倍であること。料金は①一般財源からの補助 ②減価償却費など、内部留保金の見直し ③西南水道企業団に水を安く提供してもらうこと、などで引き下げは可能であることを具体的に示してきた。

水道事業は笠岡市が経営する公営企業。公営企業は、住民の福祉の増進を目的に営まれる。企業と名がついても、利益を主たる目的とする民間企業との違いは明白。この違いをどうとらえているのかたずねた。

総務省は「公営企業の目的はあくまでも住民の福祉の向上。水道事業は市町村が経営している独占企業ともいえる。極端に言えば、料金はどうにでもなる。料金を余り高くすると、住民の福祉の向上との矛盾が起きかねない。」と述べていた。

市民が引き下げを求めている。その声に耳を傾け、公営企業の目的、福祉の増進と経済性の発揮をかね合わせる事が大切とたずねた。

西南水道企業団の決算報告書に目を通すと、ここ5年間、毎年1億円から1億5千万円程度の純利益がある。新たに金光町が企業団より水を買う

ことになれば、試算では年間約1億8000万円の増収が見込まれることになる。これらの要素を踏まえ企業団に、水の料金の引き下げを求める提案をすることはできないかたずねた。

市民病院会計に一般会計からの支出と、水道会計より貸付がなされている。市民病院だから、一般会計から補助するのは当然。水道事業へも補助すべきとたずねた。

市長は「不採算であっても事業を行なう使命がある。安易に料金が低い状況でやっているのではなく、懸命に努力している。企業団も市も健全経営が基本。金光町のことは白紙。」と答弁した。

## ごみの減量化を求めて

10%削減、分別収集の徹底という減量化の方向が新たに示された。それを受けて「廃棄物減量推進員研修会」が開かれた。「ペットボトルは、ふた、ラベルをはがしている地域と、そうでない地域がある。どうすれば良いのか」などの意見が出された。これらの声を受けて今後の対応をどのように考えているのかたずねた。

「市が発行したチラシ、市政だよりなどが十分読まれている。地域によっては独自のビラも出していると聞く。市のごみ減量化の目的を達成することができるのか。」との意見が強く出された。市民は、口々に「減量化は分別の徹底しかない」と述べている。減量化と分別収集の徹底を図るため、地域説明会を再度計画することが大切ではないかとたずねた。

市長は「推進員よりの意見で、市の減量化の方針が深まった。市民に広報誌、出前講座などで、分別の徹底、ごみの減量化に協力を願いたい。」と答弁した。

以前の答弁で「目標はごみをゼロにすることだ」と述べている。私は、市役所が先頭に立って、地域に出向き、その思いを伝える必要があることを述べて改善を求めた。

## 耐震診断・補強の推進を求めて

近い将来南海・東南海地震が予想されている。最近では能登沖地震、中越沖地震、と相次いで大規模地震が発生し、大きな被害が出ている。学校などの耐震診断・補強が、計画的に進められている。改めてその進捗状況と、今後の計画をたずねた。

文部科学省が、2008年度概算要求に今年度当初予算の、1,140億円の倍額を盛り込む方針を決めたと発表した。これは耐震補強、耐震化の動きです。市の計画を練り直す考えはないかたずねた。

国立教育政策研究所の調査研究報告によると、避難場所に指定されている公立学校のうち、水を獲得するための、浄水設備が整備されているのは27%、自家発電は14%になっている。と発表した。防災機能面の課題も明らかになっている。市内の現状と、今後の計画をたずねた。また、立替ずみの大島小学校の防災機能についてもたずねた。

## 郵政民営化と安全安心の街づくり

10月より、笠岡では、閉鎖となる郵便局は現時点ではないとされてるが将来的にはどうなるのか。島地部、山間部より不安が出ている。安全安心の街づくり条例を制定した市政として、民営化をどうとらえているのか、市民の不安の解消に向けてどのような取り組みを考えているのか、たずねた。



「島が心配だ」  
市長も不安

## 公立学校9割、避難所に 防災機能も不備

自家発電たった14%

公立学校 9割、避難所に防災機能も不備  
自家発電たった14%  
公立中・小学校の耐震化率51%  
公立小・中学校の耐震化率51%  
公立中・小学校の耐震化率51%  
公立小・中学校の耐震化率51%  
公立中・小学校の耐震化率51%  
公立小・中学校の耐震化率51%

“たてかえられた大島小学校に防災施設はない”  
と言うことは、市内小中学校どこにもないという事

教育長は「平成19年度で小中学校の耐震診断は完了する。耐震化率は51%だ。国の動向を見ながら、優先度調査結果を踏まえ、耐震化の早期実現を計画したい。防災施設は必要に応じ整備したい。大島小学校は、防災施設はない。」と答弁した。

私は、耐震化と防災機能は一体であること、水と電気は災害時には必需品であること、子供達が安全で、市民が安心して避難できる学校などの耐震化と、防災施設の整備を求めた。

今郵便局が閉鎖にならなくても、今後採算の合わなくなるだろうと言われている簡易郵便局などが、閉鎖の恐れがあると言われている。農協がなくなり、郵便局もなくなれば、地域住民の生活に支障をきたすことは明らか。閉鎖の動きがあれば、直ちに関係方面に働きかけるなど、地域住民の日常生活を守る立場で問題の解決をはかるべきとたずねた。

市長は「市内では局の閉鎖、ネットワークがなくなる事はない。現状では大局的に心配ないと判断している。問題が起きれば、郵便局と協議していきたい。特に島が心配である。」と答弁した。

私は、安全安心の街づくりは、市民生活全般にわたった街づくりであり、市民生活の低下が考えられる問題には、行政として直ちに対応することが大切であると述べた。

市民の思い  
企業団が増収→  
水が安く買える→  
水道料金の引き下げ

山陽新報

上水の購入先を統一  
金光分を笠岡市に打

金光分を笠岡市に打



決算委員会質疑で

まだバリアフリー化されていない小中学校に、常時使えるスロープなど、臨時の設備を求めました。後日副市長より、「現状を調査し、対応を求める」との返事を頂きました。



あしあと

7/17 第5回社会を明るくする運動推進大会

7/26 平和行進

声！  
声！  
声！  
なくせ  
核兵器！



8/4 よっちゃれの夜

8/6 広島平和記念式典に参加



6名の小中学生と献花

9/8 金浦中学校運動会

9/10 地域生き生きサロン・ミニ敬老会

9/12 9月議会初日

9/16 金浦地区敬老会

9/17 グループホーム愛の郷敬老会

9/22 金浦保育園運動会、

第2回「子育て講演会」実行委員会

9/14-20 代表・個人質問

9/25・10/2 本会議

9/27 環境福祉常任委員会

請願の採択を求めて

農業の振興を求めて4つの請願の紹介議員となり、採択を求めました。結果、1部継続審議、3部不採択でした。



8/11 生江浜納涼祭

8/14 金浦盆踊り大会

8/19 北木島に「みちこだより」配布  
大空と大地のカーニバル

8/21 飛島に「みちこだより」配布

8/22・23 市内に宣伝カーで議  
会報告に

8/25・26 (日本母親大会—東京・埼玉)



教育分科会スナッフ  
全国から15000名の参加

9/1 第1回「子育て講演会」実行委員会

9/3 土地利用計画調査特別委員会

9/7 真鍋島へ機雷の調査に



陸あげされた機雷

9/28 農業関係4つの請願を紹介  
(建設産業常任委員会)

9/30 健康・福祉まつり  
市民会館ホール竣工式

お世話になりました

- 西本町ロータリー緑地帯のベンチ取替え
- 中央町横断歩道の沈みを直して頂ける事になりました。
- 生江浜市道排水溝の改修
- ” 稲枯れに伴う原因解明と対策
- 生江浜側溝コンクリートふた取替え
- 吉浜東水門通学路斜面の枯れ木撤去



いきなベンチに変身

- 吉浜こびす橋路面補修
- 旭が丘—生江浜通学路坂に電柱・街燈設置
- 吉浜通学路ます池沿い、県道沿いに防犯灯設置

子供も安心

親も安心

旭が丘



足元明るく“安心”

吉浜

お世話になった皆さん

ありがとうございました。



“ないたり笑ったり騒いだり  
子供の仕事です。”



9/28 熊丸みつ子「子育て講演会」  
に90名

トピックス



ポーズをとってパチリ  
孫の海成と犬のサクラ  
どっちがかっこいい？

夫の一言

今年の猛暑、残暑には、ちょっと参りました。10月に入り、ようやく涼しくなっています。

陽射しのきつかったある月曜日の夕方、おかげ道路交差点で街頭よりの挨拶をしていました。わざわざUターンの車が横に停車。妻に「先生、もうすぐ女の子が生まれるんよ」と声をかけてくれました。そのうれしそうな顔生き生きとした顔に思わず「おめでとう、元気な赤ちゃん産んでね。」と応えました。頑張っている卒業生に励まされます。(樋之津周明)